

岩手県におけるマイマイガの発生生態と防除 (I)

—特徴と生活史及び食害による影響—

1 はじめに

本年6月頃から、県北の葛巻町や久慈市などで、マイマイガの異常発生が報告されている。マイマイガは、カラマツなどを食害する森林害虫として知られており、街での異常発生は、森林での発生とも関連があるものと考えられることから、今回、森林におけるマイマイガの異常発生と終息に至るこれまでの知見について報告する。ここでは、マイマイガの特徴、生活史及び食害による影響について述べる。

2 マイマイガの特徴

- (1) マイマイガは、ドクガ科に属するいわゆる「ガ」の仲間、樹木・森林への被害は、その幼虫が主に葉を摂食することによって起こる(写真-1)。
- (2) カラマツ及びナラ類、クリなど広葉樹類の害虫として知られているが、生息密度が高くなるとマツ類、スギ、トウモロコシなどの農作物を摂食し、加害植物は100種類を超える。
- (3) 分布は、日本全土、シベリア、ヨーロッパ、北アメリカなどに広く分布する。
- (4) 幼虫が刺激を受けると糸を引いて樹上から降りてくる性質から「ブランコケムシ」とも呼ばれている。



成虫 (左: オス, 右: メス)

3 生活史

- (1) 岩手県におけるマイマイガの生活史は、図-1のとおりである。樹幹表面や建物の壁面に生み付けられた卵塊から、5月初旬に幼虫が脱出し、6月下旬まで食害を続けて蛹となる。成虫は、7月中旬～下旬に羽化し、数日中に産卵して死亡する。発生が多いと、7月中旬～8月上旬にかけて街路灯などに飛来し、電柱や建物に産卵する。卵は、秋までに幼虫となり卵塊の中で越冬し、翌年春に卵塊を破って脱出する。
- (2) 1年に1回の発生で、樹木など植物への食害時期は5月～6月である。



幼虫 卵塊

写真-1 マイマイガの形態

4 食害による影響

- (1) マイマイガは、食葉性の害虫であり、被害は葉が減少することによって起こる(写真-2)。
- (2) カラマツの事例では、単年の食害では通常枯死は見られないが、劣勢木、植栽間もない場合、あるいは2年連続して食害された場合に枯死した事例が報告されている。
- (3) また、単年の食害では、成長減少が3年間続き、その量は1/3～2/3になった事例が報告されている。



写真-2 カラマツ被害林の8月の状況(葛巻町) 食害後、新葉が再び展葉している

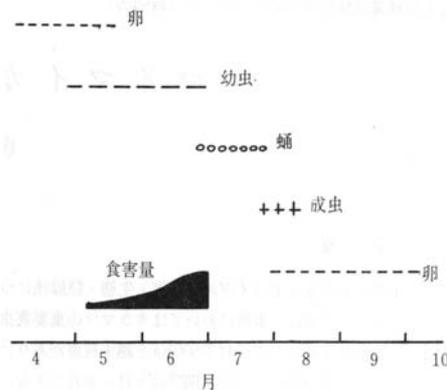


図-1 岩手県における生活史 (佐藤・高村1975)

* 参考文献

佐藤平典・高村尚武 (1975) マイマイガの生態と防除, 岩手県林業試験場成果報告 第7号: 1-21.

(担当 企画総務部 主任専門研究員 小岩俊行)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11

岩手県林業技術センター

ホームページアドレス <http://www.pref.iwate.jp/hp1017/>

TEL 019-697-1536

FAX 019-697-1410